

『天が支配する』(ダニエル書 4章 1-28節) 2021.10.10.

<はじめに> 4章は私=ネブカドネツアル王の叙述形式で綴られています。「いと高き方が人間の国を支配し、これをみこころにかなう者にお与えになる」が17・25・32節に繰り返されています。このことを異国の王ネブカドネツアルに意味深な夢を通して天の神・主は告げられました。

I 意味深な夢

① 不思議で語る神(4-18)

聖書全体を通じて、神はご自分の思いと計画を人に伝えようとされています。夢・幻・奇蹟は、神を信じる者だけでなく、頑なな者にも見える方法です。そこから神のみこころを的確にとらえるには、神を信頼し、交わりに生き、神の聖霊の助けが必要です。

② 知者たちの動き

9-17節で王が見た夢が語られ、最後の17節にはその意味と目的も語られています。なのにバビロンの知者は意味を告げられません。本当にわからなかったのでしょうか。最後にダニエルが来たのは、なぜだと思いますか。

③ 真実に、真実を(19-27、エペソ 4:15)

夢を聞いたダニエルは、驚きすくみ動揺します(19)。王に厳しい内容(24-27)だからです。それでもダニエルは王に真実を真っ直ぐ告げ、その対処まで勧告します(27)。神からメッセージを託された者の襟度は、相手の顔色に関係なく、愛をもって真理を語るのです。

II その木はあなた

① 地の中央の高い木(10-12、20-22)

高くそびえ、枝葉を伸ばし、実を実らせ、鳥や獣がそこに宿り養われる木は、諸国を手中に収めた帝国バビロンに君臨するネブカドネツアル王そのものです。今や並び立つ者は地の上にはありません。地上の覇権を手にした帝国と主権者は栄華を誇ります。

② 成功と繁栄の中で(申命記 8:11-14)

成功と繁栄は支配者の力による、と人は思っています。成功・繁栄を手に入れると、その人は心が高ぶり、慢心・腐敗によってやがて没落して行きます。『わたしの力、私の手の力がこの富を築き上げたのだ』と言わないように気をつけなさい(申命記 8:17)。

③ いと高き方が人間の国を(17,25,32)

あなたに富を築き上げる力を与えるのは主(申命記 8:18)です。人間が作るすべての国、組織、団体とその支配者さえも、いと高き神・主は全て治めておられる、と聖書は一貫して語ります。成功と繁栄の力の源は神・主にあります。忘れてはなりません(申 8:12-14)。

III 木の根株は残せ

① その木への決定(13-17、23-26)

天から見張りの者が来て、「その木を切り倒せ」の叫び声が響きます。根株は残されて野にさらされ、その心を人間から獣へと変え、7つの時を経過させます。「いと高き方が人間の国を支配し、これをみこころにかなう者にお与えになる」(17)ことを王が知るためです。

② みこころにかなう者

王は天は神が支配し、地は自分が治め、跡取りがそれを継ぐと捉えていました。しかし神はそれをみこころにかなう者に与えられる、と言われます。国を受け継ぐみこころにかなう者とはどのような人なのでしょうか(17節、マタイ 5:3・6)。

③ 根株は残せ(26-27)

厳しい決定の中にもあわれみがあります。天の神は王に夢を見せ、ダニエルを通してみこころを示されました。王の高ぶりは神には無視できず、裁定も明らかです。しかしダニエルの勧告(26-27)には回避する道が示されています。罪を除き、神に立ち返るようにと。

<おわりに> ネブカドネツアル王がこの勧めにどう向き合ったかは、章の後半に続きます。古の遠い国のことだと片付けてはなりません。天の神・主は今も人に語り掛けます。「神は高ぶる者には敵対し、へりくだった者には恵みを与える」(ヤコブ 4:6)原則は今も変わりません。(H.M.)